

〈テーマ〉実態に合わせ適用問題を充実させた取組（大河原町立大河原南小学校）

〈実践例〉本時のねらいと実態に合わせ、適用問題を複数用意し、応用力を鍛える工夫

① 「解きたい」と思わせる問題場面の設定

（6年・速さ）

「野ウサギ（1分間に約1300m）、ライオン（時速58km）、ウサインボルト（100m9秒58）速さを比べ、速い順に並べよう。」

（6年・図を使って考える）

「あるお菓子を食べきるのに、Aさん1人では15日、Bさん1人では10日かかります。Aさん、Bさん2人同時に食べると、このお菓子を食べきるのに何日かかりますか。」

（6年・分数のかけ算）

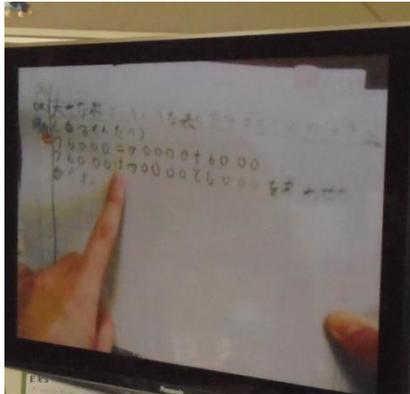
「1dLで $1/2\text{m}^2$ のかべをぬれるペンキがあります。このペンキをこぼしてしまつて、 $3/4\text{dL}$ になりました。 $3/4\text{dL}$ でぬれるかべの面積は何 m^2 ですか。」

② 自作の問題を作り、解く時間の設定

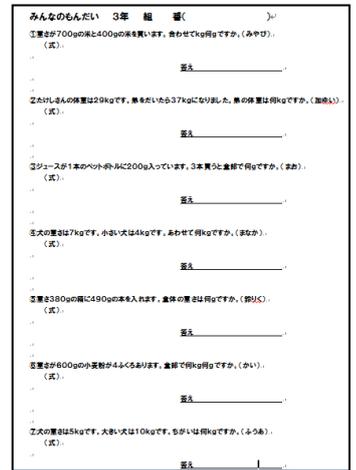
- ・ さまざまな学年、単元において、教科書やドリル等の適用問題が終わった後、自作の問題を作らせた。
- ・ 児童の自作問題は、ICTを活用してテレビに映したり、読み上げたり、拡大して書かせたりするなどして紹介した。また、授業の最後にみんなで解いたり、自作問題を集めてプリントにし、宿題として解かせたりした。



（自作問題を全体で紹介する様子）



（プリントにした例→）



（児童の反応）

- ・ 生活に結び付く実際にありそうな場面を使うことで、児童の興味関心や意欲を引き出すことができた。
- ・ 問題作成を通して、学んだことを振り返ることができていた。
- ・ 問題を作ることが内容理解や演算決定への理解を確かなものにしていった。
- ・ 友達が作った問題を解くことの楽しさと、自分が作った問題をみんなが解いてくれる喜びを感じていた。
- ・ 宿題プリントに自分や友達が作った問題が載っていることで、家庭学習に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ 様々な単元で「自分問題づくり」の時間を取り入れ、回数を重ねたり、ペアで問題を作ったりするを通して、児童は「自分問題づくり」を楽しみにしている姿が見られた。